

2月総評

西躰 かずよし

おばーの
ような
あなたのうたごえを
抱いてぎんがのほとりをねむる

さいう 石川県

普通なら「ぎんがのほとりでねむる」と書くけれども、筆者は「ぎんがのほとりをねむる」と書く。そうすることで「ぎんがのほとり」は、単なる場所ではなく、時間の概念を含むものとなる。まるで「あなたのうたごえ」が、永遠の眠りを約束するかのよう。

冬の星風船ガムの苺味

吉沢 美香 宮城県

いちご味というのは、どこかなつかしい。そして風船ガムと続けば、まっさきに駄菓子屋が思い浮かぶ。でも、多分、「冬の星」は、子どもの頃うきうきして食べたガムの味を表しているのではないと思う。

ここで描かれるのは、なつかしいそれが、かつてのようなきめきをもたらすものではなくなったという、ほろ苦さにも似た感情なのだろう。

雪の果おべんとう残してごめん

麓 天海 愛媛県

語り手は、単に、お腹がいっぱいでおべんとうを残したんじゃないと思う。食べたくても食べられない理由が、どこかにあって、だから、詫びるしかなかったんだと思う。時に愛は鋭く人を傷つける。それでも「私」というものは他者と無関係に存在することはできない。

雪の果ては、終わりのない愛情のメタファーのようにも見える。

手術室に繋がる電話冬菫

azusa 京都府

手術室につながる電話と言うと特別な感じがする。でもそれが、手術室のはりつめた緊張を加速させるものだったら、「冬菫」と書かれることはなかったように思う。手術という非日常の時間が、「冬菫」で日常に変わる。

戦場のような場所にいる医師や看護師にも、ふと等身大の自分に帰ることがあるに違いない。電話はそのきっかけと言えるだろう。

麒麟でも飼うつもりの三月を
こんな明るい吹き抜けにして

常田 瑛子 山口県

三月を吹き抜けにするなんて、すばらしいと思う。そしてそれは、きっとひかりを解き放つんだと思う。ただ、その明るさには、どうしようもない空っぽのさびしさも含まれていて、だからこそ、「麒麟でも飼うつもりの」という問いがそこには、必要とされたのだろう。

レシートをまっすぐ折って花曇

ムクロジ 群馬県

手持ちぶさたなとき、レシートをまっすぐ二つに折ることはよくあることのように思う。そして、そこに現れる曇天。さくらの咲くころの曇天は、期待と不安の入りまじった気持ちそのもののようにも見える。

わる口を言うときのこえ冬かもめ

大西 美優 広島県

たとえ自身のことでも、これくらい距離を持って書けるというのが俳句の特徴かもしれない。ただそれは、書き手がそう読めるように書いているという証左でもある。自身が風景の一部となることで、冬のかもめはより鮮明なものになる。

ざわめきを遠くに覚え
ぺんぎんのさみしさで行く
母校のろうか

川上 真央 東京都

語り手は母校に何を見ているのだろう。喪なってしまったものなのだろうか。ただ、「ざわめきを遠くに覚え」と書いてあることから、ただならぬ何かのようにも見える。不安が不安のままに作品に表されていて、「ぺんぎんのさみしさで行く」という一節が、胸に迫る。

あおあおとした
友達が手を振る日
わたしは単語帳をながめる

高祖 にたまご 岡山県

それぞれの道をいつか歩くことになるので、僕たちはきちんとひとりでしかない。友達が手を振る日に、自身のために単語帳をながめる私はきっとただしくて、だからこそ、そんな時は、どうしようもなく苦しくなるのかもしれない。

初雪に
すっぽかされて
通学路

帆立 愛媛県

通学路が初雪にすっぽかされるという発想がおもしろい。初雪も通学路もまるで子どものようで。すっぽかされた通学路はじゅうぶんに寂し気だけれど、時に僕たちをやさしい気持ちにさせてくれる。